九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

報告：ISE'94 Workshop on Neuro Fuzzy Systems

高木, 英行
松下電器産業中央研究所

https://hdl.handle.net/2324/4488126

出版情報：日本ファジィ学会誌. 6 (6), pp.1001-, 1994-12. 日本ファジィ学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

Vol. 6, No. 6

報告

ISE'94 Workshop on Neuro Fuzzy Systems

高木 英行*

94年9月5～9日にドイツHamburg郊外で第2回Int'l Conf. on Intelligent Ststems Engineering(IEE主催)が行われた。本会議に続いて8日午後と9日午前に4つのワークショップが平行して行われた。筆者はこのうち、表題のワークショップに参加したのでその特徴を報告したい。このワークショップでは合計9件の発表があり、4件が制御、2件が解説とサーベイ、そして、リカレントニューラルネット中心の発表、融合化モデルとそのソフトの公開、パターン認識ツールの発表が各1件づつであった。なお、4つのワークショップ部分の論文誌はない。

このワークショップと同月21～23日のEUFIT'94に参加して、欧州のファジィ研究における2つの共通した印象を持った。1つはファジィの応用分野が制御に非常に片寄っていること、2つめはNN+FSが現在非常に盛んで3～4年前の日本を思い出させることである。EUFIT'94では全セッションの1/4がFS/NN/GAに関わり、11名の全体講演者の半数がニューラルネットや遺伝的アルゴリズムについて述べていることから、状況をご推察いただきたい。

これらの理由は、ドイツ産業界のファジィ研究開発の牽引会社がSiemens、Daimler-Benz、VolksWagenといった自動車や重工業主体の会社で、制御が大きな社内応用分野であることと、ファジィ研究がようやく欧州産業界に受け入れられるようになった昨年あたりの研究調査では90年以降の話題であるファジィシステムのおける学習・適応性等が目を引いたであろうことが考えられる。(余談ながらEUFIT'94でのSiemensの全体講演者はNN+FS応用について話し、上記DB社はFS/NN/GAの学習システム・プロジェクトをこの秋に発足させ、上記VW社は筆者がDB社訪問中の13日に社内ファジィシンポジウムを開催していた。)

また、標題のワークショップでの1件あたりの発表時間は45分あり、質疑応答だけにとどまらず、パネルディスカションのような本当の議論ができた。この理由は、持ち時間が45分と長かったこと、質問や話題をどんどん出して来るキーマンがいたことと、人数が約20人程と議論には適当であったこと、が理由であろう。ワークショップ最終の発表が終わった後では、ほとんど全員に近い参加者がこの分野についての各自の意見を述べて議論に参加しており、発表会だけに終わらなかったことに見習うものを感じた。例えば、制御理論の大御所も参加していて、どうしてNN+FSが従来の確立した理論を超えることができるのか、と疑問を提出し、それに対して大学院生クラスも遠慮せずに反論してくるというような様子あった。日本では、ファジィ推論とエキスパート・システム研究会がこのような雰囲気を狙った「言いたい放題の合宿研究会」を行っているが、一般のワークショップやパネルディスカッションでの運営に取り入れたい雰囲気である。

なお、今回は私費滞在であり、当地では窮状を察した多くの方々のご支援を頂いた。紙面を借りてここに御礼申し上げたい。

[問い合わせ先]
〒619-03 京都府相楽郡精華町 3-4
松下電器産業株式会社 中央研究所
高木英行
TEL：07749-8-2522
FAX：07749-8-2577
e-mail HTakagi@crl.mei.co.jp

* Hideyuki TAKAGI
松下電器産業 中央研究所

に ファジィの分野に参入された方には